

神奈川県三浦市の地域課題調査報告

—明治大学商学部「特別テーマ実践科目 C (2023 年度 春)」報告書—*

秀平 幹太 (4 年)
山中 智仁 (4 年)
山本 龍輝 (4 年)
渡邊 涼香 (4 年)
小澤 怜以 (3 年)
津野 葵泉 (3 年)
松尾 隆策 (指導教員) †
明治大学 商学部

Survey Report on Regional Issues in Miura City, Kanagawa Prefecture

Kanta Hidehira (B4)
Tomohito Yamanaka (B4)
Ryuki Yamamoto (B4)
Sayaka Watanabe (B4)
Rei Ozawa (B3)
Aoi Tsuno (B3)
Ryusaku Matsuo (SV)
The Meiji University, School of Commerce

神奈川県三浦市は都心からのアクセスがよく、人気な観光スポットとして有名な土地である。しかし、市の人口は減少しており、高齢化率も上昇している。明治大学商学部では三浦市との連携のもと「特別テーマ実践科目 C」において、アクティブラーニングによる実習・実践授業に取り組んだ。本報告書はその活動と調査結果から得られた事柄をとりまとめたものである。

キーワード：神奈川県三浦市，人口減少，高齢化，アクティブラーニング，実習・実践授業

Miura City, Kanagawa Prefecture, is well known as one of the popular sightseeing spots because of its easy access from the city center, but its population is decreasing and its aging rate is increasing. Meiji University, School of Commerce, in cooperation with Miura City, engaged in practical training and practical classes in “the Special Theme Practical Subjects C”. This report summarizes the survey results of this practical training class.

Key words: Miura City, population, population, practical training, the results of the survey

* 本稿は、明治大学商学部「特別テーマ実践科目 C (2023 年度 春学期)」における神奈川県三浦市での、半年間にわたる調査実習授業の報告書として取りまとめたものである。三浦市での調査実習において、三浦市経済部観光プロモーション課課長の柴田和義氏には、現地での日程調整や調査対象者に対する交渉において、大変お世話になりました。改めましてここに感謝の意を表します。本稿のありうるべき誤りの責任は、すべて本稿の筆者らにあります。

† 明治大学商学部 松尾隆策 研究室

〒101-8301 東京都千代田区神田駿河台 1-1 研究棟 14 号館 312 号室 E-mail: matsuo078@meiji.ac.jp

1. はじめに

神奈川県三浦市は都心からの交通アクセスがよく、人気の観光スポットの1つとして有名な土地である。しかし年々、市の人口は減少しており、それとともに高齢化率も上昇している状況にある。また、三浦市はマグロやサバをはじめとした新鮮な海産物だけでなく、美しい景色やマリンスポーツ、また歴史的建造物などが各所があり、観光客を誘引する条件が整っている。

このことから、市はこれまで、観光産業を活性化させる政策をおこなってきた。観光協会のデータによると、2012年～2018年までは、観光客数、観光消費額ともに上昇傾向にあった。しかし、2019年以降は新型コロナウイルスの感染拡大で大きく落ち込むことになった。2023年5月にコロナによる行動制限が完全に撤廃され、観光客数は徐々に回復傾向にはある。しかし、コロナ禍で、多くの飲食店、宿泊業が廃業をしたため、一層の地域活性化、観光振興策の提案が急務である。

明治大学商学部では三浦市との連携のもと「特別テーマ実践科目」において、アクティブラーニングによる実習・実践授業に取り組んだ。本報告書は、その活動と調査結果から得られたことをまとめたものである。第2節では三浦市の概要、観光政策、問題点を挙げていく。そして第3節では、実際にフィールドワークで実施したことを、参与観察やインタビュー調査を交えながら報告し、第4節ではそこから得られた知見と問題点への対策を提示していく。

2. 神奈川県三浦市について

2.1. 三浦市の概要

神奈川県三浦市は、三浦半島の先端に位置している人口約40,000人の市である。東京都心から南へ約50キロメートルの距離にあり、市の玄関口である京浜急行電鉄三崎口駅までは、電車で品川駅から約65分、横浜駅から約50分、自動車では高速道路経由で東京ICから約75分で行くことができる。関東圏からの交通アクセスが便利である反面、市内の人口は54,339人(1994年)をピークとして緩やかに減少し続けている(図1)。

2014年には、日本創成会議・人口減少問題検討分科会により、2010年から2040年にかけて、20歳～39歳の女性人口が5割以下に減少する「消滅可能性都市」と評価され、市の人口は2030年には約38,000人、2060年には21,000人台にまで減少すると予想される。また1994年以降も高齢者人口は増加し続け、2020年の高齢化率は40.8%であり、神奈川県の25.0%や全国の28.6%を大きく

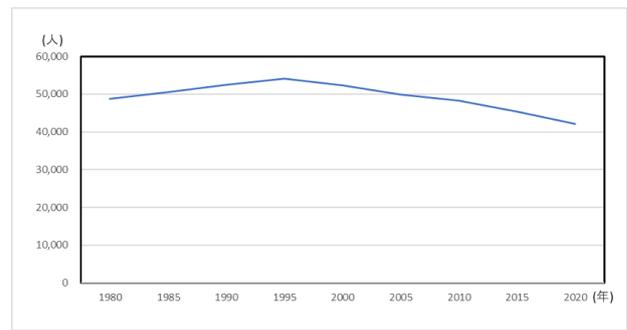


図1 三浦市の人口推移

資料：三浦市「三浦市の統計人口」

https://www.city.miura.kanagawa.jp/soshiki/digitalka/digitalka_tokai/1_1/143.html

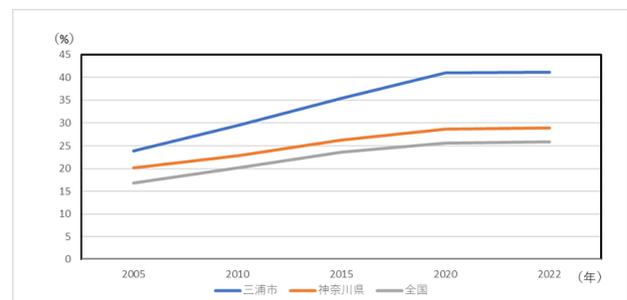


図2 三浦市の高齢化率推移

資料：三浦市「三浦市の統計人口」

https://www.city.miura.kanagawa.jp/material/files/group/34/20230401P1_2.pdf

上回っている(図2)。

三浦市には、マグロやサバ、大根などの農水産品をはじめとする様々な名産品がある。加えて、三浦海岸や油壺湾が広がっており、海越しに見える富士山を望んだりマリンスポーツを楽しんだりすることができる。さらに、江戸時代の寺院や神社などが点在し、日本の文化・歴史に触れることもできる。このように、都心からアクセスしやすく豊かな自然に囲まれながら過ごせる環境を活かして、市ではこれまで観光政策や移住促進政策を実施してきた。以下に2つの政策を紹介する。

(1)観光政策：みさきまぐろきっぷ

みさきまぐろきっぷは、京浜急行電鉄が発券しており、品川や横浜と三崎口間の往復料金と京急バス乗り放題がセットになっている。さらに、協賛店舗でのまぐろ料理1食分と現地の施設入場や体験、またはお土産に利用できる特典券がついている。デジタルきっぷの料金は、品川駅発で3,660円、横浜駅発で3,570円とお得に購入することができる。

(2)移住促進政策：トライアルステイ(お試し移住)

トライアルステイとは、三浦市への移住を検討している人に向けて、空き家等を活用して短時間のお試し移住を体験してもらうことにより「移住のきっかけづくり」を行うプログラムである¹。利用者は、滞在中に住んでみないと分からないような地域の雰囲気を感じ取ったり、地元の人や移住してきた人たちとつながりを持つたりすることができる。

2.2. 三浦市の課題

三浦市の問題点は、人口の減少と高齢者の増加と言える。これらの問題が発生している要因として、次の3点を挙げる。

(1)基幹産業の衰退

三浦市は、かつて農業や漁業など第一次産業が盛んであった。しかし、経済成長に伴いこれらの産業が衰退してきている(図3, 図4)。

(2)交通の不便さ

市内ではバスが約30分に1本のペースでしか走っておらず、スーパーやコンビニなど毎日の生活に必要な店に行くには車が必要になる。また、三崎口から発車する京浜急行電鉄の電車は、観光客が多い休日に本数が多いダイヤ構成になっており、横須賀や横浜などへ通勤や通学、買い物などで日常的に電車を利用したい人にとっては不便に感じることが多い。また、バスやタクシーは夜の時間帯に運行していないことに加えて、宿泊施設が少ないという問題がある。そのため、三浦市に観光しに来たとしても、最終運行時間までに帰らなければならない、夕方の公共交通機関の混雑や市の滞在時間の短縮につながっている。

(3)観光客が多いが、移住者の増加に結びつかないこと

三浦市の観光客は、コロナ禍を除いて年々増加傾向にあったが、その約9割は日帰りでの来訪である。滞在時間が短いため、純粋に地域の観光資源を楽しむだけになってしまい、観光客を移住に結びつけるためのアプローチができていないことが課題となっている(図5)。

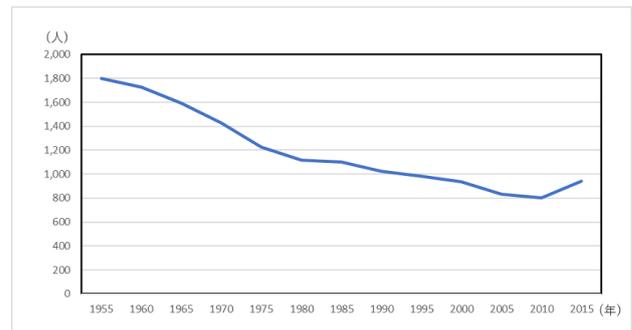


図3 三浦市の農家総数の推移

資料：三浦市「三浦市の統計農業」

https://www.city.miura.kanagawa.jp/soshiki/digitalka/digitalka_tokai/7539.html

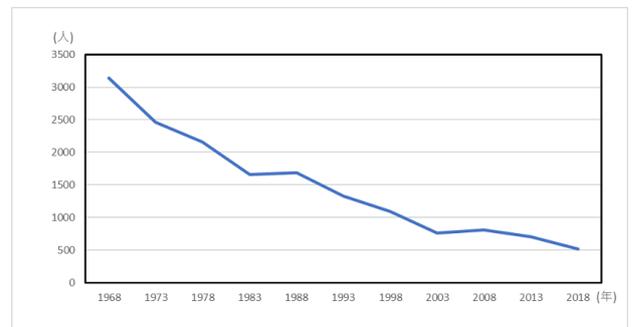


図4 三浦市の漁業就業者数の推移

資料：三浦市「三浦市の統計水産業」

https://www.city.miura.kanagawa.jp/soshiki/digitalka/digitalka_tokai/7539.html

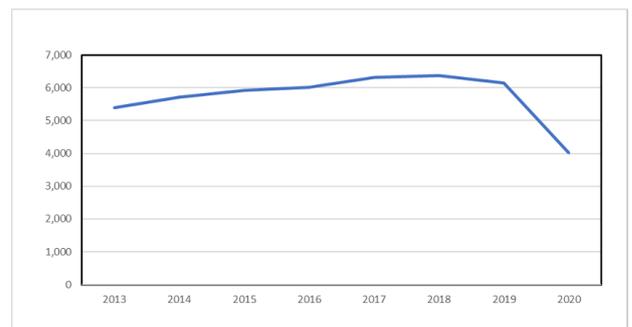


図5 三浦市の入込観光客数の推移

資料：三浦市統計書及び神奈川県入込観光客調査結果
https://www.city.miura.kanagawa.jp/material/files/group/27/kan_koushinnkouvision.pdf

これらの課題に対して、市は三浦半島魅力最大化プロジェクトを掲げて観光施策や移住促進施策を実施しているものの、現状として根本的な解決には至っていない。

¹ トライアルステイ(お試し居住)&リノベーションまちづくり
<https://www.city.miura.kanagawa.jp/soshiki/shichoshitsu/toraiairusutei/815.html>

3. 本調査の概要とその結果

3.1. 道寸祭りにおける参与観察

(1) 道寸祭りの概要とその内容

5月28日に神奈川県三浦市の油壺にある荒井浜海岸にて行われた道寸祭りに参加した(図6)。道寸祭とは、三浦一族の鎮魂祭である。三浦一族とは鎌倉時代に源氏に仕えてから栄枯盛衰がありながらも、相模国の中郡と三浦郡(現在の平塚市や三浦半島)を治めていた一族である。しかし、室町時代に北条早雲との壮絶な攻防ののちに滅亡してしまった。その際に、自決した当主の三浦道寸をはじめとした一族の血で湾が赤く染まったことが「油壺」という地名の由来となっており、そのような地で鎮魂祭として当時の当主の名前を借りて行われているのが道寸祭りである。

祭は前半の「供養祭」と後半の「笠懸」の二部構成で行われる。前半の供養祭では、道寸の位牌や掛軸が祀られ神事が行われる。供養祭は、後半の笠懸と比べて雨天であったとしても決行される予定であったため、祭の中でも重要視されている部分であるということが分かる。この供養祭ののちに笠懸が行われる。笠懸は平安時代から鎌倉時代に成立した騎射三物の一つであり、中でも笠懸は実践的な武芸に近いものとされている。これを鎮魂祭で行うのは三浦一族のお家芸として長らく伝えられてきたためである。

祭では、実際に、公益社団法人大日本弓馬会という日本弓馬道を保存するために活動している方達が参加することで、当時の再現がなされている。そのため、この笠懸神事を見るために訪れる観光客も少なくない。実際に今年は約3000人の来場者を記録している。これまでも、コロナ禍で開催されなかった2020年、2021年を除いては、46回も開催されており、記録が残っている1998年からでも数千人規模での来場者数を、継続的に記録している(図7)。この中の何割ほどが市外からの観光客なのかは不明であるが、文化や遺産を後世に伝え観光振興の一助とするために行われているこの道寸祭りが、三浦市の地域活性化に及ぼす影響は大きいということが言える。



図6 2023年度「道寸祭り」のチラシ
資料：三浦市観光協会

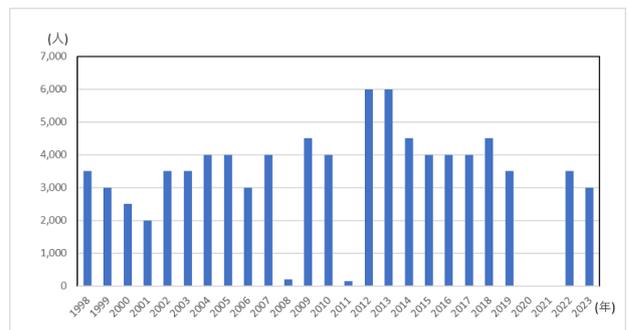


図7 道寸祭りの来場者数の推移
資料：三浦市経済部おもてなし課

(2) 参与観察

今回の参与観察として、道寸祭に実際に祭側の人後半部分である笠懸に参加させていただくことができた。「直垂」という武家社会で用いられた衣服を着用し、「諸役」という役が与えられた(図8)。この諸役には、明治大学の学生の他にも、地元の三崎中学校や、三浦初声高校の生徒もボランティアとして参加していた。参加した気かけを聞くと、それぞれの学校の先生から打診があり、親御

さんも乗り気であったということで参加した方が多いようであった。

全員が諸役を経験するのが初めてのため、1時間ほどのレクチャーが行われたのちに本番が始まった。笠懸は諸役が馬場を練り歩く行軍から始まった(図9)。その後、騎手が笠懸の順番を決める矢代振が行われ、そしてすぐに馬が馬場を試し走りする素馳が行われた。これで笠懸における準備は完了し、ようやく、本番である実際に弓を射的中枚数を競う奉射に移る。

諸役もここからが本番のようなもので、直垂は動き回するには重くかなり体力を使うものであったが、的を交換する役割や馬が走り出す合図をする役割など様々な経験をさせてもらうことができた。そして奉射が終了し、締めとして凱陣の式が行われた。この式では奉行役、騎手、諸役の全員が集まり、騎手が的中させた的の検分を行う。

本来、的(まと)は不浄なものとされているため頭領による浄が行われる。その後には皆による勝鬨を行い、式自体は終了となった。特にこの凱陣の式は緊張感があり、周囲も静かにその式が終わるのを見守っているという様子であった。全体を通じて至近距離で笠懸という歴史的な催しを見れたこと、そして祭の一部としてそこに参加できたことは非常に貴重な体験であった。



図8 直垂を着用した諸役の様子

写真撮影：松尾



図9 行軍の様子

写真撮影：松尾

(3)調査結果から得られた知見

今回の参与観察では、道寸祭りがどのような歴史を持ちながら運営されているのかを調査した。特に、地元の学校の生徒などの地域の人々が祭に参画することで毎年数千人の観光客を集客できているという点から、この祭が三浦という地域に及ぼしている影響の大きさを知ることができた。また、文化や遺産を後世に伝えることで、三浦という地域の観光振興の一助としている点についても非常に意義があるだろう。

実際に参加して笠懸の途中で上がる歓声を聞き、祭後にご利益のあるという的を購入するための列を見たりすることで、道寸祭りが盛り上がる様子を肌身に感じることができた。今後もこの伝統を絶やすことなく後世に歴史を伝えていくことで観光振興の一助とすることで、地域を盛り上げて欲しいと感じた。

3.2. 三浦市内の経営者に対するインタビュー調査

(1)「3204(サン ニ ゼロ ヨン) bread&gelato」におけるインタビュー調査結果

「3204 bread&gelato」は、鎌倉の名店のピストロ「OSHINO」と自家製小麦にこだわる三浦市のパン屋「充麦」がタッグを組んで作った、神奈川県三崎港にあるジェラートとパンのお店である。お店の経営は、栃木県出身の女性の店主が、横須賀市出身の夫とともに、三浦市に移住して営んでいる。移住を決めた理由は、三浦市の海岸から見える富士山に感銘を受けたからであり、天気が良ければお店からきれいな富士山が拝めるようになっている。店内はすべて自分たちでリフォームを行っているそうで、日本の漁港と西洋の雰囲気を感じられる内装に小

麦の香りがほのかに流れる空間となっている (図 10).

みさきまぐろきっぷで利用できることや、インスタグラムを活用しているという理由から、顧客は若い観光客が多いため、営業は金・土・日の三日間としているそう。お店の前が漁港で車が止められるようになっているため、地元の人が車で来店できるようにもなっている。

観光客は多いが、その多くが日帰りであり早い時間に帰ってしまうことが三浦市の課題として挙げており、バスや電車の本数を増やしたり、宿泊施設を充実させたりことで三浦の夜を発展させたいと述べていた。



図 10 「3204bread & gelato」の外観

(2) 「三浦パン屋 充麦」におけるインタビュー調査結果

店長の蔭山充洋氏は、横須賀市の出身でクラブ DJ をされていたという異色の経歴を持つ。「三浦パン屋 充麦」は、30 歳でヨーロッパを旅した折にフランス、アヴィニオンで、地元産の小麦を使ったパン屋さんに出会ったことで、帰国後、「自分で作った小麦でパンを作りたい」と思い、奥様の実家の農家の畑で小麦栽培を始めたことがきっかけである。市内の古い店舗を改装したという簡素なつくりであるが、地元だけでなく市外からも消費者が訪れる人気店である(図 11, 図 12)。

小麦の品種は、「ニシノカオリ」というもので、病気に強く、倒伏しにくいという特徴を持つ (図 13, 図 14)。

自家製の小麦以外にほぼ全ての材料を、可能なかぎり地元産にこだわっている。特に食パンが人気で、自家製無農薬の小麦で作られたパン生地は、もちもちとした食感があり、熱狂的なファンが多い(図 15)。クリームパンの材料に使う卵やサンドイッチの野菜も、全て地元産を使用している。地元産の食材を使うことで、消費者に安心を与えるだけでなく、仕入れの段階で、地元のつながり、ネットワークが広がるという大きな効果があると話されていた。



図 11 「三浦パン屋 充麦」の外観

写真撮影：松尾



図 12 店内の様子

写真撮影：松尾



図 13 脱穀した小麦

写真撮影：松尾



図14 小麦(製粉前)

写真撮影：松尾



図15 店頭に並ぶ人気の食パン

写真撮影：松尾

(3) 若澤美義氏(みうら・みさき「海の駅」代表取締役社長)に対するインタビュー調査結果

若澤氏は、現在、みうら・みさき「海の駅」で代表取締役社長を務めるが、以前は三浦市経済部において、まちづくり政策に携わられていた。現在も、三浦市の観光振興に尽力されている。若澤氏を明治大学特別テーマ実践科目(駿河台キャンパス)においてゲストスピーカとして招聘し、「三浦市の地域活性化の取り組み～シティセールスプロモーション」というタイトルで、三浦市の活性化について講演していただいた。

若澤氏によると、観光入れ込み客の減少の要因として、景色を見に来る人が減少し、観光に目的を求めなくなったことを挙げていた。これにより、借景観光を行っていた三浦市は深刻な状況に陥ったと考えられる。この状況を打開するために、三浦市は、かつてマグロの水揚げ日本一であったこと、東京近郊で古い街並みであること

などを生かした地域活性化への取り組みを行った。マグロに関しては、三浦市の観光政策で述べたようにみさきまぐろきっぷを発券し、三崎の下町の活性化を促進している。

古い街並みを生かした取り組みとしては、テレビのロケ地としての活用、映画やドラマの制作支援、新規性の高いイベント企画を挙げていた。これらの取り組みにより、直接経済効果、地域PR効果、シビックプライド、間接経済効果、伝統文化の保全といったプラスの効果が期待できたそうである。

この効果を一時的なものではなく、恒常的なものにするために、行政がおこなうトライアルステイなどの移住政策や、海業公社がおこなう商品開発などの観光客増加策に力を入れている。しかし、観光客増加に関しては良い傾向がみられるが、移住に関してはそうではなく、観光客は増えているが移住者は増えないという状況がみられる。これについて、トライアルステイを行っても、泊まる場所があまりきれいでなかったり、移住する先の場所がなかったりとこの場所に住みたいと思えるような取り組みになっておらず、形だけになっているように感じる。

ほかに、三浦市に移住するにあたる問題点として、職場や学校までの通勤通学問題、塾がないといった教育の問題、住民が排他的な傾向があり、移住を増やしたいと思っている人が多くないことを挙げていた。この問題について若澤社長は、地域活性化には地元の人々の協力が大事であり、内と外の両方への働きが重要であると述べていた。以上のインタビューから、街というのは、もともと三浦市に住んでいる人、移住してきた人、三浦市でビジネスを始めた人、市役所の人など多くの人で構成されているため、それぞれの人の想いを尊重した政策やビジネスを行っていく必要があると推察する。



図15 三崎港商店街「くろば亭」

写真撮影：松尾

4. 本調査から明らかになった課題

4.1. 基幹産業の衰退

今回行った参与観察および聞き取り調査から三浦市の地域振興政策には、以下のような課題が明らかになった。

(1) 漁業

神奈川県三浦市三崎漁港は、昭和初期よりマグロの沿岸漁業や沖合漁業が盛んに行われ、1970年代頃には、遠洋漁業の基地として発展したが、近年その規模は縮小傾向にある。主な理由として、東名高速道路が出来て、わざわざ三浦から輸送しなくてもよくなったことがある。漁港の水揚げ高減少に伴ない、「とる漁業」から、近年は「育てる・つくる漁業」への転換を図るため、神奈川県水産技術センターを中心に、栽培漁業などに力を入れている。

(2) 農業

温暖な気候を活かした露地野菜中心の農業が、基幹産業として活発である。しかし近年は、交通機関の整備に伴って、京浜市場に持ち込まれる他産地との競争が激化している。このため、市内の農家数は、減少に転じている。地域間のこのような競争激化を乗り切るため、品種改良や新作物の導入、安全を意識した栽培を行っている。

4.2. 人口の減少と交通インフラの衰退

上記の様な問題点から、三浦市の人口は1994年をピークに減少傾向にあり、交通インフラも衰退しつつある。交通の不便さで言うと、市内では、終電や終バスの時刻が早く、市内で夜、観光などを楽しめないことが、住民、観光客の不満となっている。そもそも電車やバスの便数の減少は、人口減少で乗客が減る中での交通会社の措置とされる。市では、人口減少に伴う経営的な理由からの交通環境の悪化と、交通環境の悪化が招く更なる人口減という悪循環の解決法に悩まされている。

実際に、今回のフィールドワークで訪れた際にも、観光は楽しめたが、住むとなると交通面で、高齢者の通院や子供の通学に不便を感じるであろうと思われた。近年、新たに市内に移住して、飲食店を開店する人が増え、商店街は徐々に活性化してはいる。しかし、このような新規の回転による移住者の増加が、市の人口増加にまで繋がるようになるためには、やはり交通インフラの充実が必要であると思われた。

三浦市の活性化策としては、東京からの日帰りでの映画の撮影が出来るため、コストを抑えることが出来るという利点を撮影会社にアピールすることで、「映画のまち」としての「シティープロモーション」も行なわれて

いる。このプロジェクトは、三浦市が主導となって進めて来たことで近年では毎日のように、市内の各地で撮影が行われ、年間約120本の映画やテレビドラマ、コマーシャルが撮られるまでになった。実際、『みうら・みさき「海の駅」』の直売所の店内には、多くの芸能人の写真が貼られていた。

このような映画やテレビドラマなどの撮影により、多くのファンが、いわゆる聖地巡礼として訪れ、観光客は増加している。しかし、この聖地巡礼により、リピート客の増加するまでには至っていない。賑わいは一時的であることが多く、持続的な観光客の増加、さらに移住者の増加につながりにくいことも課題であると言える。

4.3. 活性化策の提言

このように三浦市は、漁業という基幹産業の衰退などの理由により、人口減少に歯止めがかからない状況にある。先に述べたが、三浦市の人口は1995年をピークに減少傾向が続いており、高齢化率は全国平均、及び神奈川県平均を上回り、さらに上昇を続けている。

一方で、市内の入込観光客数は堅調に推移しており、コロナ禍が収束すれば、再び回復するだろう。このように観光客数は堅調に推移しているのにもかかわらず、人口は減少していることが、三浦市の特徴であることが明らかとなった。

移住する人が、なかなか増加傾向に転じないことの原因は、移住用に、空き家のリノベーションや新築住居の整備が進んでいないことなどに加え、子育て世代にとって、子供を通わせるための進学塾や進学校が、市内にそろっておらず、教育熱心な家庭にとっては移住の妨げになっている。

三浦市の移住促進のための解決案として以下が考えられる。観光業のさらなる発展が必要である。すなわち、現状でも観光客数は増加しているが、観光客の満足度、そして、利用金額を向上させることが、更なる観光客増加のために必要と考える。このことにより、観光消費額の増加を、市の財政増に繋げることが理想的である。

そのために具体的には、宿泊施設を充実させることが重要であると考えられる。これまでは、立地的にも規模的にも、日帰り観光にターゲットを絞った取り組みがメインであった。先述した様に三浦市は終電・終バスの時間が早く遅くまで滞在することが出来ないという課題を抱えていることを考慮すれば、何よりも、市内のホテル・旅館などの宿泊施設を充実させることで、市内に滞在する観光客の増加を促すことが重要である。

また、移住先として考えられる空き家については、その数が少ないうえに、老朽化している民家も多いことか

ら、トライアルステイの取り組みが思うように機能していないことも課題である。今後は、空き家のリノベーションを進めることで、トライアルステイの政策の充実が求められている。

5. おわりに

本稿の分析により、三浦市は人口の減少と高齢者の増加が主要な問題点であることが明らかとなった。要因として考えられる3点に関して、考察していきたい。1つ目に、基幹産業の衰退に関しては、漁業・農業ともに体制を変化させ、時代に沿ったアピールを展開していく必要がある。また、活発である農業においては三浦ブランドを中心とした野菜のPR活動、認知度の向上に、一層力を入れるべきである。さらに、三浦の自然にあふれ、下町感の漂う舞台ではドラマや映画、テレビのロケは年間100本から120本に及ぶといわれている。これも全国に三浦市の良さを広める良い機会になるのではないかと考える。

2つ目には、交通の不便さに関して、前述の通り、電車、バス、タクシーなど夜の交通手段がないことが日帰り観光客をメインとし、宿泊観光客数の増加が見込めない要因になっていると考えられる。市は、「みうら夜市」を8月に2日間開催しており、その間は夜の交通手段も増加していて来場客数は、3万人に及ぶほど賑わっているが、それも一時的なイベント効果である。今後も日帰りだけでなく宿泊を伴った観光も促せられるよう、適切な施策、夜の観光事業の設立、認知度の向上と共に夜の交通手段の増加を同時に行う必要がある。

3つ目に、観光客の増加数に対して、移住者の増加数が伴わないことに関しては、観光客へのアプローチができていないことがあげられる。近年、移住者による新店舗の開店数が増加している。更なる移住者の増加のためには、先住者の移住者に対する意識の改善、市内のインフラ整備を整えていく必要がある。

以上のように、特別テーマ実践科目（春学期）において現地調査を行い、三浦市の直面している課題を明らかにした。秋学期はこの課題に対してのいくつかの解決方法を提示し、実践していきたい。主に観光客の増加策として、三浦市の特産品を用いた新商品の開発、販売等の実践を行い、三浦市の地域振興につなげたい。

参考文献

RareAレアリア “実は三浦はロケの街!?”

(<https://rarea.events/event/126762>, 最終アクセス日: 2023/7/19)

三浦市「三浦市観光振興ビジョン～三浦市は人よし食よし気分よし」2021年 (<https://www.city.miura.kanagawa.jp/material/files/group/27/kankoushinnkouvision.pdf>, 最終アクセス日: 2023/07/19).

三浦市「第2章 三浦市の産業」『私たちの郷土三浦』2023年 (<https://www.city.miura.kanagawa.jp/material/files/group/24/kyoudo1-2.pdf>, 最終アクセス日: 2023/07/19).

公益社団法人 大日本弓馬会HP (<https://yabusame.or.jp>, 最終アクセス日: 2023/07/19).